

学習会のあゆみ

★1998 年度

- 9月 岡崎市の福祉について「各施設・訪問看護・ホームヘルパーなどの現状」(志知さん 伊藤さん)
- 10月 「ホスピスの現状」(三重県七栗ホスピス 橋本美恵子婦長)
- 11月 「死への準備教育」(愛知病院 安江副院長)
- 12月 「自分でできる乳房の異常の見つけ方」(愛知病院沢柳看護部長)
- 1月 「私の出会った人々」(光ヶ丘女子高校Sr.アンジェラ森)
- 2月 「ボランティアの立場から」(国際病院ボランティア 田中淑美さん)

★1999年度

- 6月 「賢い患者になるために」(愛知病院 有吉寛院長)
- 7月 「ガン告知について」(愛知病院 沢柳つは子看護部長)
- 8月 「授業を通して命を学ぶ」(天野幸輔 中学教諭)
- 9月 「緩和ケアって何？」(愛知病院 兵藤千草婦長)
- 11月 「話し合い」(作家「江藤さんの決断」を読んで)
- 12月 「今、なぜホスピス？」(愛知ホスピス研究会 永井照代会長)

★2000年度

- 4月 「一度遺言を書いてみませんか」(宮道佳男弁護士)
- 5月 「死の準備教育 私見」(愛知病院 安江満悟副院長)
- 6月 「自分のカルテを作しましょう」(愛知病院 有吉寛院長)
- 7月 「患者と医者の信頼関係を築くには」(愛知病院 内田胸部外科部長)
- 9月 「死を受け入れてどう生きるか①」(光ヶ丘女子高校 Sr アスンタ中山校長)
- 10月 「ガンの痛み」(岡崎市民病院 石井正大院長)
- 11月 「死を受け入れてどう生きるか②」(天野義裕住職)
- 12月 「延命治療とは何か」(岡崎市民病院 鈴木久三副院長)
- 2月 「終末期の在宅ケア」(地域の看護介護施設長)

★2001年度

- 4月 「死を受け入れてどう生きるか③」(二村エッケルト敬子氏)
- 5月 「臓器移植について」(浅居朋子コーディネーター)
- 6月 「終末期における私の意思表示書」(愛知病院 有吉寛院長)
- 7月 「終末期における私の意思表示書」(市民病院 石井正大院長)
- 9月 「死を受け入れてどう生きるかシリーズ④」(寺田正親神父)
- 10月 「終末期における患者・家族の関わり方」(市民病院 看護婦さん)
- 11月 「終末期の在宅ケアに開業医がどう関わるか」(志賀医師会会長)
- 12月 「あなたはホスピスを選びますか？」各ホスピス関係者
- 2月 「終末期の在宅ケア」<環境・設備・介護用品>

★2002年度

- 4月 「死を受け入れてどう生きるか⑤」(二村エッケルト敬子氏)
- 5月 「終末期の在宅ケア」(岡崎医師会 小出義信副会長)
- 6月 「緩和ケア最前線Ⅰ」(山崎祥子 緩和ケア認定看護師)
- 7月 「緩和ケア最前線Ⅱ」(県立愛知病院 有吉寛院長)
- 9月 「死を受け入れてどう生きるか⑥」(岩崎一二三神父)
- 10月 「5周年記念のつどい」永六輔さん(お世話になった方々と在宅死を選んだ妻と家族の生き方)
- 11月 「告知からの生きかたⅠ」(岡崎市民病院 看護師さん)
- 2月 「告知からの生きかたⅡ」(岡崎市民病院 石井正大院長)

★2003年度 「連携」

- 4月 「私のたまたま箱」記入(私のカルテ P16までを記入)
- 5月 「臨死体験から見た死後の世界」(馬場俊彦教授)死を受け入れてどう生きるか⑦
- 6月 「なぜホスピス緩和ケア病棟が必要か」(愛知病院 内田外科部長)
- 7月 「私のたまたま箱」記入(終末期の在宅ケアについて)
- 8月 「心と体の癒しの研修」(飛騨千光寺 大下大園住職)
- 9月 「私のたまたま箱」(遺言書の書き方とホスピスボランティア)
- 10月 「終末期の患者さんに寄り添う心のケアとは」(太田実神父)馬死を受け入れてどう生きるかシリーズ⑧
- 11月 「主治医の上手な見つけ方」(柴田睦ソーシャルワーカー)
- 1月 「私たちができる心のケア」(沼野尚美 ホスピスチャプレン)死を受け入れてどう生きるか⑨
- 3月 「病診連携に携わって思うこと」宮地恭一先生(開業医)

★2004年度 「岡崎にホスピス緩和ケア病棟を」署名運動

- 4月 「ホスピスの原点」(名古屋テレビ代表取締役専務・中林良夫氏)
- 5月 「マッサージ」<アロマセラピーを用いて>(加藤元美さん)
- 6月 「ホスピスで終末期を過ごした人の家族の話」
- 7月 「ホスピスフェア」<岡崎にホスピス緩和ケア病棟を>
- 9月 「私が考える緩和ケアとは」(愛知病院 高木仁美看護師)
- 10月 「緩和ケアを考える会の取り組み」(岡崎市民病院)
- 11月 「ホスピスフェア」<岡崎にホスピス緩和ケア病棟を>(有吉寛愛知病院院長・内田達男医師・小出義信医師会長・青山秋男議員)
- 12月 県議会で愛知病院に緩和ケア病棟設立決定

学習会のあゆみ

★2005年度「緩和ケア病棟ができるよ」

- 4月「がん専門病院化と緩和ケア病棟」(愛知病院 陶山元一院長)
「緩和ケア病棟開設にむけて」(高木仁美看護師長)
- 6月「緩和医療の新しい展開」(渡辺正緩和ケア部長)
- 7月「コーディネーターの役割とボランティアの実践」
(愛知国際病院山内コーディネーター杉山さん水谷さん)
- 10月「告知治療在宅における患者の意思の伝え方」
(岡崎市民病院 緩和ケアを考える会)
- 11月「小児がんを体験した子供たちに学ぶ」(佐藤律子さん)
- 3月「緩和ケア病棟の利用の仕方」渡辺正部長 開業医 訪問看護師

★2006年度「緩和ケア病棟ってどんなところ？」

- 2006年4月愛知県がんセンター愛知病院に渡辺正緩和ケア部長が就任され
7階に20床の緩和ケア病棟開設
- 4月「緩和医療に対する漢方医療」(山崎泰爾医師)
- 5月 9月 1月「緩和ケア病棟に贈るベッドカバーを作ろう」
- 6月 8月 特別講演「愛知県がんセンター愛知病院緩和ケア病棟の
報告会と見学」(渡辺正緩和ケア部長)
- 6月「病人に食べさせやすいゼリー状の食事の作り方」実習 試食
- 7月「延命治療とは何か」—意思表示をするために—(市民病院 石井元院長)
- 10月「延命治療とは何か」—具体的例を挙げて説明—
(市民病院 緩和ケアを考える会)
- 11月「おいしい紅茶の入れ方」—ボランティア準備—
(紅茶の専門家 中村鏡子さん)
- 12月「アロママッサージを習いましょう」—ボランティア準備—(加藤元美さん)
- 3月「どうなるの？岡崎の医療Ⅰ」—現状を知る—
(小出義信医師会会長・柴田睦市民病院ソーシャルワーカー)
緩和ケア病棟で患者さんと御家族見舞い客に、ティーサービスのボランティアを
開始 遺族会・七夕会・クリスマス会へ参加

★2007年度「どうなるの？岡崎の医療」

- 4月 5月6月7月「どうなるの？岡崎の医療Ⅱ」
- 7月 アロママッサージのボランティアを開始
- 8月 介護保険を使って生活できる施設の見学(老健・特老・グループ
ホーム・有料老人ホーム・高齢者賃貸住宅・ケアハウスなど)
- 9月 10月 11月「どうなるの？岡崎の医療Ⅲ」〈介護保険を使ってできること〉
- 2月「どうなるの？岡崎の医療Ⅰ～Ⅲ」を振り返って
- 3月 死を受け入れてどう生きるかシリーズ⑩
「心に残る患者さんたち」渡辺正愛知病院緩和ケア特別顧問

★2008年度「私のたまたま箱」を開いてみましょう

- 5月 7月 9月 10月 2月
2001年度版「私のたまたま箱」の「緩和ケア」「意志表示書」「終末期の在宅ケア」
「遺言書」を中心に新しい情報を入手しながら改訂
- 10月「いい人生を送るための遺言と相続の話」(石原且也行政書士)
- 2月 2008年度版「私のたまたま箱」完成
2001年度版購入者に改訂ページを配布

★2009年度「地域の医療を守るために私たちができること

- 3月 7月 10月
1.医療者と患者の「嬉しかったこと・悲しかったこと」を伝えあった。
- 2.市民病院 木村院長、小出医師会長、犬塚保健所長、稲垣市議会議
議員6名、行政1名、訪問看護師7名、ソーシャルワーカー、薬剤師、
市民が同じテーブルにつきそれぞれの立場でできる事、協力する事を
確認しあった。

★2010年度「どんな状況になっても私が私でいられるように」

- 3月「人間の尊厳が保たれなければ生きている意味はないか」意見交換
(安江満悟先生、小出義信医師会長、柴田睦ソーシャルワーカー)
- 6月「近くに濃い親戚を持たない一人暮らしの人の意思を聞いて」勉強会
(友人、医師、看護師、ケアマネ、ヘルパーなどとの連携で、支えられた例)
- 11月「80歳を過ぎて高齢者専用賃貸住宅に移られた3人」の話聞いて意見交換
(清水看護師、松崎訪問看護師、三村ケアマネ)

★2011年度「私の生き方」「いい人生だったね」と言えるように

- 6月「認知症の早期発見と予防」岡崎東病院 鈴木院長
・早期発見 予防 介護 その中でもいい人生を過ごすには
- 10月「愛知病院 橋本淳緩和ケア部長とのおはなしの会」
- 3月「私の生き方」延命治療 自分の意思表示書をテーマに交流会

★2012年度「15周年を迎えて」

- 6月「希望のホスピス」渡辺正 ホスピス医師
- 11月「自宅で死を迎えるには」—市内在宅で支援してくれる人たちとの勉強会—
(橋本淳緩和ケア部長・久永専門看護師・中根医療相談員
・在宅医師・訪問看護師・ケアマネージャー・ソーシャルワーカー
・ヘルパー・薬剤師・訪問歯科医師・歯科衛生士・生協福祉事業部
・シルバー人材センター・鍼灸・マッサージ師等 19名の講師参加)
- 3月「私が大切にしてきたこと」那智勝浦で自然と共存して生きる安江満悟
先生を訪問し、先生のメッセージをビデオで感じとる。

学習会のあゆみ

★2013年度 年間テーマ —「いい人生だったね」と言えるように—

- 6月・「認知症の流れと一人暮らしⅠ」岡崎東病院 柴田睦ソーシャルワーカー
- ・早期に治療を始めれば治せるようになってきた。
 - ・気づいてもらうためには心話をせる友 親族との定期的な交流会や笑いが大切。
- 9月・「尊厳死」をどのように考えるか、尊厳死協会理事 古賀順子さん
- ・「尊厳死の宣言書」不治かつ終末の具体的な内容が少し変わってきたこと 会員が増えて関心が高くなってきたことなど現状を話していただいた。
- 11月「認知症の流れと一人暮らしⅡ」岡崎東病院 柴田睦ソーシャルワーカー
- ・認知症と肺炎、糖尿病、免疫低下などとの関連
 - ・一人暮らしのために「私のたまたま箱」の利用法や後見人制度の報告もあった。

★2014年度 年間テーマ —「いい人生だったね」と言えるように—

- 3月：渡辺正医師が愛知病院で6月にできる緩和ケアセンターの説明と、そこに集う患者家族の「場」の存在意義が話された。
在宅での終末医療を心配されました。
- 6月：在宅で支援して下さる人たち 須田勝久先生(鴨田町)須田クリニック院長
- ・3人の患者さんを在宅で看取った話をされ、医師 看護師 ケアマネ 薬剤師ヘルパー 有償ボランティア マッサージ師 理学療法士など あらゆるスタッフとの連携を上手に利用し、本人の覚悟さえあれば、一人暮らしの最期も在宅で可能であることを教えて頂く。
 - ・嵐の中往診途中で亡くなった祖父の姿が、先生の在宅医療の原点だったと話される須田先生に信頼できるお人柄を感じました。
- 11月：いつまでも美味しくご飯を食べよう 長尾恭史岡崎市民病院言語聴覚士
- ・誤嚥が肺炎の原因になること、喉の筋力を鍛える開口訓練頭部挙上訓練等を教えて頂く。
 - ・試食しながら、喉から食道と気管支にいく映像を見て納得できた温かい勉強会でした。
- 11月：愛知病院の中庭にできた地域緩和ケアセンターを知って利用してもらおうと
10月 11月に運営委員で勉強し通信に掲載しました。

★2015年度 年間テーマ —「いい人生だったね」と言えるように—

- 3月：顧問安江満悟先生を那智勝浦からお迎えし、先生の小さな3つの体験談「ハチとナナ・鶏肉製造工場・有機農法」から大きなテーマ「人生の最期」に繋げてお話ししていただき、アットホームな総会となった。
- 6月：「岡崎市の老人福祉施設の現状」岡崎東病院の柴田睦ソーシャルワーカー
- ・どこにどのくらいあるかを、施設名と対象となる状態を示して頂き、見学するときに利用者さんの表情を観察することがいい施設かどうかを見分ける鍵となる。

★2015年度 年間テーマ —「いい人生だったね」と言えるように—(前頁続き)

- ・介護が必要になった時いくらかかるか。
 - ・パンフレットに書かれていない金額がかなり必要となる。
- などを用意された資料を基にユーモアあふれた口調で解りやすく説明された。
- 11月：「在宅で暮らすとは？」岡崎東病院の柴田睦ソーシャルワーカー
- ・自分の意思を託せる人を決め依頼しておくこと
 - ・優秀なケアマネジャーの選び方、口コミや介護を受けている人からの情報の必要性
 - ・「私のたまたま箱」の上手な使い方を通して在宅で暮らすには、今私たちが何をすべきかを考えさせてくださった。

★2016年度 年間テーマ —「いい人生だったね」と言えるように—

- 3月：「総会と交流」手術を受けた人在宅での医療を選択近況報告と分かち合い。
- 6月：「緩和ケアの役割」橋本淳緩和ケア部長
愛知病院緩和ケアの実情と入院患者さんのその後、ボランティアの役割
- 9月：橋本淳愛知病院緩和ケア部長との交流会
患者、その家族、在宅医療者、看護師、ボランティアなど参加者全員との率直な意見交流。
- 11月：「死を受け入れてどう生きるかNo.11」早川努カトリック岡崎教会司祭
何らかの世界観を持ち何かを信じようとして生きている。
人は愛を紡ぐ役割を持ち自分の意思で周りを慈しむことを期待されている。
- 1月：2016年度活動計画の立案と交流

★2017年度 年間テーマ —「いい人生だったね」と言えるように—

- 3月：2016年度総会 会員同士の交流会と渡辺正先生とのおしゃべり
- 5月：事前勉強会「岡崎の在宅医療の現状とこれからの方針」
- 6月：岡崎の在宅医療の現状Ⅰ—これからの方針—岡崎市福祉部長寿課より
齊藤哲也副課長 杉山直人前杉福祉部長 岸明信地域包括ケア推進係長
- 10月：岡崎市の在宅医療の現状Ⅱ—お一人さまの在宅医療—
浪切もり子葵訪問看護ステーション所長 清水俊子ほっとハウス愛看護師
- 1月：「2018年度計画」の立案と交流

★2018年度 年間テーマ(20周年を迎えて)—原点を見つめ直そう

- 4月：総会 会立ち上げた運営委員を迎え、何を大切にしてきたかを聴き交流
- 6月：いのちをみつめて「死を語ろうⅠ」
会員同士6.7人のグループで語り合い仏教和田あい子 カトリック早川努
- 10月：いのちをみつめて「死を語ろうⅡ」
科学・仏教 和あい子・カトリック光ヶ丘女子高校校長シスターマリア小林